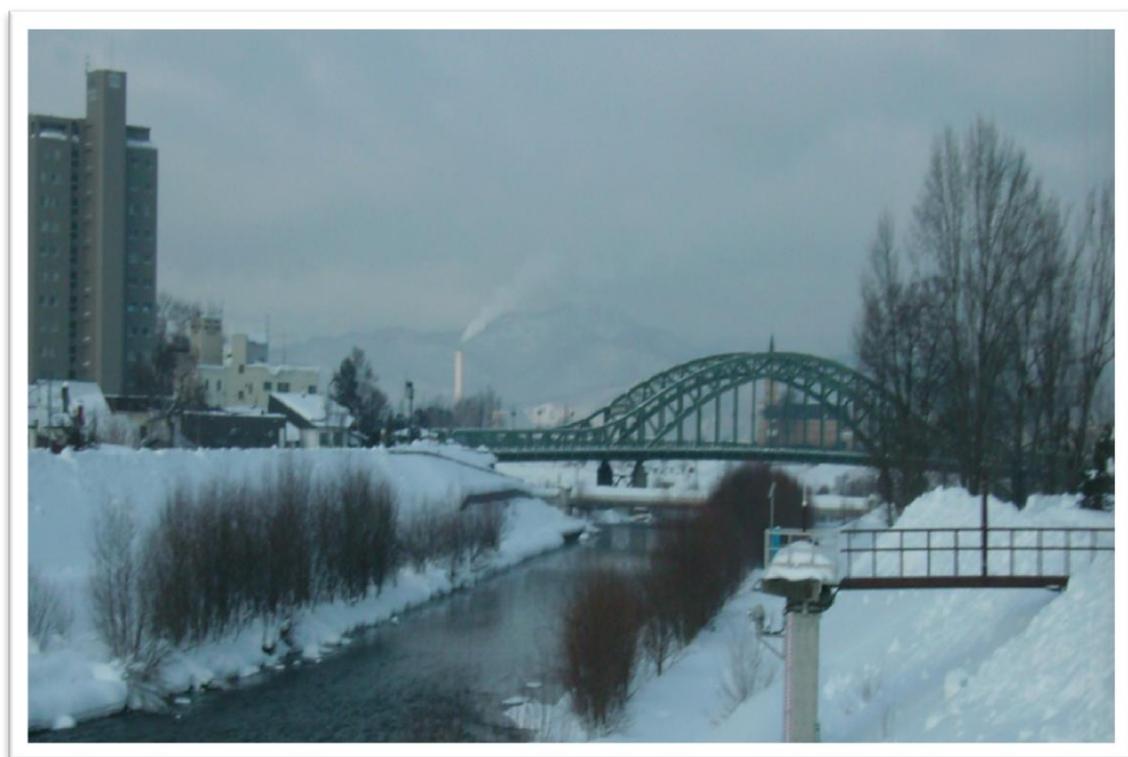


# 2013年度あさひかわオープンカレッジ 連続講座

「もっと知りたい旭川～文化都市 旭川にくらす～」

## 報告集



一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

共催：旭川市教育委員会

## 刊行にあたり

今日、大学・短大や高専などの高等教育機関は、地域の自治体と結びつき、地域の課題に取り組みながら人材を養成するとともに、そのもてる知的かつ物的資源を積極的に発信することによる社会貢献を使命としています。本公開講座は、一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアムによって企画・運営される生涯教育の試みとして、単なる知的興味の満足や情報伝達に終わるのではなく、市民の皆様とともに旭川圏域の課題をより現実的に受け止め、さらなる地域づくりに寄与することを目標とするものであります。

平成 25 年度には、例年のように旭川市教育委員会との共催により、「もっと知りたい旭川～文化都市旭川にくらす～」という統一テーマのもとに 5 大学・短大 1 高専による連続公開講座を 9 月に 3 回と 11 月に 3 回ずつ実施いたしました。

これからの旭川圏域の課題を担うべく、このたび実施されました連携公開講座を通して、市民の皆様が発信される知的情報は、その都度の講座でいただいた聴衆からのレスポンスを得てはじめて、私たちが暮らす社会のウェルビーイングにとって実りをもたらすことができるでしょう。

最後になりますが、本連携公開講座に快く参加していただいた関係各位の皆様、市民の方々には、衷心より御礼を申し上げます。今後のさらなる地域の発展と連携の充実を祈念しつつ刊行の挨拶とさせていただきます。

旭川大学保健福祉学部教授 信木 晴雄



# 目次

第1回「文学は旭川の文化財」		
旭川工業高等専門学校	教授 石本 裕之	— 2
第2回「文学都市としての旭川」		— 4
—宮澤賢治とその詩篇「旭川」—		
北海道教育大学旭川校	准教授 大橋 賢一	
第3回「子ども等を介護負担から解放し、在宅ケアで老後を生きる」		— 6
—旭川市近郊の高齢者意識調査から—		
旭川大学保健福祉学部	教授 高波 澄子	
第4回「家具から見るインテリアデザイン」		— 8
—椅子を使ったコーナーの提案—		
東海大学芸術工学部	特任教授 織田 憲嗣	
第5回「自由からの逃亡」を考える		— 10
—「自由」の真の意味とは—		
旭川大学短期大学部	教授 山下 由紀夫	
第6回「日本の35万人市を比較してみよう」		— 12
—旭川は住みやすい市か—		
旭川医科大学	教授 藤尾 均	
「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計		— 14
サテライトキャンパス	U-プラザ事務局	

# 文学は旭川の文化財

2013年9月7日(土) 13:00~14:30

旭川工業高等専門学校 石本 裕之

## 【講座概要】

旭川市の市民憲章には「文化を育て、豊かな郷土をつくりましょう。」とある。本講演では、井上靖や三浦綾子など全国的によく知られた作家を多く輩出した旭川について、文学という視点から見直し、旭川における「文化財としての文学」について考えることにする。

旭川市には数多くの文学碑、詩碑などが建立されているが、意外に知られていないものが多い。代表的なものを列举すると、「井上靖」文学碑(4条通8丁目緑橋通)、「小熊秀雄」詩碑(旭川市常磐公園内常磐館(旧青少年科学館)裏)、「今野大力」詩碑(旭川市常磐公園内旧川のおもしろ館裏)、「知里幸恵」文学碑(旭川市錦町15丁目北門中学校校庭内)、「徳富蘆花」歌碑(旭川市末広8条1丁目旭川実業高校敷地内)、「若山牧水」歌碑(旭川市春光台公園内)などがあり、その総数は41基ほどである。このように、文学碑や詩碑の多さからも、ここ旭川と何らかの形で関わりのある作家が多いことがわかる。さらに市内には旭川文学資料館、井上靖記念館、三浦綾子記念文学館などもあり、文学を楽しめる環境が整えられている。

2013年10月より放映されている連続テレビドラマ「東京バンドワゴン」シリーズの著者である小路幸也氏は、旭川市出身でかつ旭川工業高等専門学校の出身でもある。少年期を過ごしたパルプ町はデビュー作「空を見上げる古い歌を口ずさむ pulp-town fiction」のタイトルにもなり、実際に小説中の舞台にもなっている。なお、このデビュー作において第29回メフィスト賞を受賞しており、今現在も旭川とつながりのある作家が活躍している一例である。

また、昭和初期に活躍した詩人である小熊秀雄の名を冠した「小熊秀雄賞」は、旭川の市民実行委員会によって運営される全国的にも珍しい賞である。この賞は第40回をもって終了されるはずであったが、旭川において市民実行委員会が立ち上げられ、その後第41回以降も継続され現在に至っている。選考委員の一人として私も関わらせていただいている。小熊自身は旭川新聞社記者としてわずか7年間しか住んでいなかったにも関わらず、ここ旭川でこの賞が主催され、今や「北の文化」の代表する賞として広く知られるようになった。

以上のように、文学という切り口から旭川を見直してみると、多くの作家を輩出していることだけでなく、作家と作品に敬意を表し、今現在も新たな文学を生み出す素地を持っている素晴らしい地域であると言える。これからも今まで以上に「文学」を「旭川の文化財」として大切にすべきであると考えます。



# 文学都市としての旭川

## —宮澤賢治とその詩篇「旭川」—

2013年9月14日（土）13：00～14：30  
北海道教育大学旭川校 大橋 賢一

### 【講義概要（70分）】

はじめに～「永訣の朝」と樺太紀行 大正12年（1923年）

- 1 宮澤賢治「旭川」
- 2 「旭川」に関する疑問
- 3 疑問に関する検討

まとめ

### 【質疑（15分）】

本講義では、宮澤賢治「旭川」を取り上げ、上に示したような流れで話をすすめた。宮澤賢治「旭川」は次のような詩篇である。

植民地風のこんな小馬車に／朝はやくひとり乗ることのたのしさ  
「農事試験場まで行って下さい。」／「六条の十三丁目だ。」  
馬の鈴は鳴り馭者は口を鳴らす。／黒布はゆれるしまるで十月の風だ。  
一列馬をひく騎馬従卒のむれ、／この偶然の馬はハックニー  
たてがみは火のやうにゆれる。／馬車の震動のころよさ  
この黒布はすべり過ぎた。／もっと引かないといけない  
こんな小さな敏渉な馬を／朝早くから私は町をかけさす  
それは必ず無上菩提にいたる／六条にいま曲れば  
おゝ落葉松 落葉松 それから青く顫えるポプルス  
この辺に来て大へん立派にやってみる  
植民地風の官舎の一ならびや旭川中学校／馬車の屋根は黄と赤の縞で  
もうほんたうにジプシイらしく／こんな小馬車を  
誰がほしくないと云はうか。／乗馬の人が二人来る  
そらが冷たく白いのに／この人は白い歯をむいて笑ってゐる。  
バビロン柳、おほぼことつめくさ。／みんなつめたい朝の露にみちてゐる。

この詩がかかれたのは、大正12年（1923）であり、賢治が樺太旅行の途中、立ち寄った旭川をうたったものである。

一見してわかるように、この詩は馬や、馬に関わる言葉が目立つ。具体的に列挙すれば「小馬車・馬の鈴・黒布・馭者・騎馬従卒のむれ・ハックニー・たてがみ・馬車の屋根・乗馬の人」である。また植物もいくつか具体的に書かれており、それらは「落葉松・ポプルス・バ

ビロン柳・おおばこ・つめくさ」といったものである。

本詩に「殖民地（植民地）風」とあるように、馬にしても、植物にしても、これらはいずれも開拓された土地、植民地的な要素を持っていると思われる。当時の旭川の写真と見比べると、本詩は比較的、当時の現状を巧みに写したものであることが確認できた。

興味深いのは、当時の写真を見ると、旭川にも既に車が使われていることがわかるが、そうした最新の機械については賢治が感心を払っていないことである。そうした理由については今後の検討が必要であることを指摘した。

また、「無上菩提にいたる」とあるが、なぜ仏教の悟りを意味する語句が、ここで用いられているのかは判然としない旨を述べたところ、フロアから六条通と何か関連性があるかも知れないとの指摘をうけた。



# 子ども等を介護負担から解き放ち、在宅ケアで老後を生きる

—旭川市近郊の高齢者意識調査から—

2013年9月21日（土）13：00～14：30

旭川大学保健福祉学部 高波 澄子

## 【講座概要】

高齢者自身は、これからの行く末、特に子どもら世帯とどのような関わりをもって生きることを望んでいるのだろうか。2012年7月、老人クラブの会員（60歳以上）140名を対象とする無記名自己記述式質問紙調査法を行った。

その結果の概要は次の通りであった。(1) 子ども等との密接な関係を保ちながら暮らしたいとする者が過半数を占めた。しかし、自力での生活が困難になった場合「子どもに世話をしてもらいたい」とする者は約16%にすぎない。そして「施設に入りたい」とする者は60歳代では4割を超える。(2)「現在の生活をこのまま続けたい」とする者がほぼ7割を占め、年代が上がるにつれてその割合が高くなっている。世帯別にみると独居世帯と三世帯世帯では8割、夫婦世帯では約6割を占めた。

上記の結果(1)をさらに分析すると、子ども等との密接な関係を望む過半数の者のうち、自力での生活が難しくなった場合に「子どもに世話をしてもらいたい」する者は26.3%、つまり3.8人に一人に過ぎない。自立している間は子どもらとは密接な関係でいられようが、介護が必要な状況になると子どもに迷惑をかけるから従来 of 関係を続けるわけにはいかない、という親の思いであろう。

結果(2)は、独居世帯者の8割がこれから先も「現在の生活をこのまま続けたい」と望んでいることを示しているが、他の世帯と比べて高齢の独居世帯者に多い『心配事や悩みごと』をどのように乗り越えているのか、気にかかるところである。また、80歳代になっても約37%（2.7人に一人）が「そのときは施設に入りたい」としている。高齢者は、何歳になっても子どもに負担を強いる依存関係という形の老後の到来を望んでいないことが分かる。

現在の生活のあり様を変えずに子ども等との密接な関係を保ちながら暮らしたい、とする者が多いなかで、その対極にある施設に入りたい、とする者の割合が高いということは何を語っているのだろうか。そこに介在するのは、やはり子等に掛かる介護負担への懸念であろう。

これらの結果から、たとえ要介護状態になっても子ども等との絆を保ちながらこれからは生きるには、住み慣れた家での子ども等に介護負担をかけることのない暮らしが必要であることが分かる。

子ども等に依存しない（負担を強くない）、ケアのあり方として専門職による在宅ケアが求められる所以である。

福祉先進国デンマークにおいて高齢者福祉政策の基幹として全自治体で実施されている24時間在宅ケアをわが国にも導入できないだろうか。わが国において近時、24時間地域巡回型訪問サービスのモデル事業が行われているが、これはデンマークの24時間在宅ケアを

視野に入れたものに相違ない。

この24時間在宅ケアの根底にあるものは、「高齢者がたとえ要介護状態になっても子ども等に介護の重荷を負わせることなく、自宅等で自立して生きる」ことである。これは、子ども等を老親の介護から解放することによって、親子として絆を確かめ合いながら共に生きることを可能にしよう。



# 家具から見るインテリアデザイン：椅子を使ったコージーコーナーの提案

2013年11月2日（土）13:00～14:30  
東海大学芸術工学部 織田 憲嗣

## 1. 私の暮らした家

私は終戦からまだ一年も経たない頃、高知県の片田舎に生まれました。おぼろげな記憶では、南方からの引き揚げ者であったため、どこかの家に間借りしていたように思います。その後、小さな家を建て、さらに小学校入学の頃、母親が旅館を営むため街中に大きな家を建て、そこに高校卒業まで暮らしました。

以後、大学進学により大阪で30年間を過ごすことになるのですが、この間に暮らしたのは総て集合住宅でした。北海道に暮らすことになり、さらに集合住宅に暮らした後、11年前念願の『森の家』に住むことになりました。

## 2. 戦後の住宅政策

日本では長い間、借家制度があり、戦前のデータでは、大阪の堺で90%、名古屋で85%、東京では60～70%もの借家が存在していました。しかし戦後そうした制度が無くなり、持家制度に変わり、政策として個人が家を建てなければならなくなりました。同じ敗戦国のドイツやイタリアがアメリカのマーシャル資金をはじめ、様々な融資を公営住宅に投資したのに対して、日本は先ず産業の復興に重きを置いたため、九州の石炭（筑豊）と鉄（八幡製鉄）にあらゆる資金を投入、住宅政策は個人負担となりました。

ようやく国の公営住宅が建てられたのは終戦から10年も経った、1955年の公団住宅です。こうした背景から生まれた戦後の住宅は後に住宅産業を生み出すことになり、住宅は商品として大量生産され“家はお父さんが建てるものから、買うもの”へと変わってゆくことになりました。そのため、初期には20年もすると建替えなくてはならないような住宅も数多く建てられたのです。そうした家々に共通していたのはリサイクルにもならない、塗りもの、張りもの、プリントもの、集成材などをはじめ、石油系の材料が多用されていたことでしょう。こうした材料は出来上がった時が一番美しく、月日を経るごとにみすぼらしく変化することです。

## 3. 住宅取得の環境

日本では住宅を建てる・取得することは欧米に比べ、非常に困難なように思われます。しかし昭和30年頃までは何とか一般のサラリーマンでも家が建てられたようです。ところが年収が大きく伸びた現在、家はますます入手が難しくなっているように思われます。これは数字上からも明らかで、昭和30～53年までの24年間で六大都市の地価は43倍にも上昇したのに対し、所得は15～16倍の伸びです。昭和35年には、平均的なサラリーマンの年収の2.5倍で一戸建てが実現したのに対し、昭和60年には年収の7倍もの資金が必要となりました。衣食住の中でも、住の部分がいままでたっても豊かにならない、住文化の貧しさは先進国の中でも最も遅れているのではないのでしょうか。表で比較していただくとよくわかると思います。

## 4. 欧米と日本における空間と家具の歴史的概念的比較について

欧米の建造物は、主に石やレンガなどを積層した壁が建物全体を支える構造です。そのため、各部屋の使用目的は、予め決められており、それぞれの生活に合わせて個性的な空間の演出がなされます。

一方、日本の建築においては、柱や梁が構造体となり、柱と柱の間を土壁や障子、ふすまなどで間仕切るものが増えてきました。そのため、それぞれの間仕切りを取り去ると内と外が連続的な繋がりを生み出す、極めてフレキシブルな空間と言えます。

## 5. インテリアの面から捉えると

欧米では、恒久的な積層建築において、そこに住む人が変わるごとに、自己表現的に、それぞれの時代性や個人の趣味が反映された空間の演出がなされました。日本では儀式の日や来客の際はハ

レの日として、様々な調度品で室礼がなされました。「ハレ」に対して、日常の生活を「ケ」として、暮らしにめりはりをもたらせることも日本独自のものと言えます。

## 6. 家具の歴史的な概念について

ラテン語の「家具」を意味する言葉として mobilis (可動家具) があります。これは中世封建時代において、領主が各地の館を季節ごとに巡回するために、その際に家具は組立・分解する必要があったのです。その名残として mouble (仏), mobel (独), mobilio (伊), mobler (典) があり、これはいずれも「家具」の意味です。

一方、英語の「家具」を意味するのは furniture ですが、これはフランス語の fournire : 「設備する」や、英語の furnish : 「家具を備え付ける」、からのものと考えられます。いずれにしても英語の furniture は、可動家具のほかに、建物に造り付ける家具や暖炉・板張りなどの意味も含むようです。

日本の家具という言葉は、「家飾具」という、生活道具全般をさす概念のものからの由来です。家飾具には、空間を間仕切るための屏障具 (屏風・すだれ・障子・ふすまなど) や、坐臥具 (椅子・床几・畳・円座・枕など) のほか、家什具 (箱・厨子・つづら)、化粧具・文房具・灯火具・飲食具などが含まれました。これが、ハレの日に室礼として用いられたのです。

## 7. 限られた室内空間におけるコージーコーナーの提案

日本には衣・食・住という言葉があります。この中の「衣」については、世界で最も高い衣類を身につけている民族でしょう。例えば着物や帯は普通の衣類とは言えないかもしれませんが、どの家族にも何枚かの高価な和服はあるでしょう。また、独身貴族と言われた女性たちの衣類に対するお金のかけ方は世界的に見ても大変なものがあります。また、「食」については、どの家庭にも和食器のほか、中華料理や洋食に関する道具や器の類まで揃っているのではないのでしょうか。自国の食文化のみならず他国のものまで備わった台所は日本だけではないかと思われまます。このように「衣」と「食」については世界のトップクラスにある日本ですが最後の「住」に関してはどうか。

ここにあるデータがあります (前出の表参照)。30 年前のものではありますが、日本の都会における住宅事情は当時とあまり変わっていないのではないのでしょうか。住環境の貧しさは、かつて欧米から「うさぎ小屋」と揶揄されたほどです。子供のために個室はあっても父親や母親のための部屋は望むべくもないのが現実ではないのでしょうか。

そこで提案したいのが畳 1 枚分のスペースがあれば出来る「コージーコーナー」の勧めです。リビングルームの片隅や階段ホールなどコージーコーナーに適した場所はあるのではないのでしょうか。そのために準備するものとして、畳 1 枚分くらいのカーペット。これは自分の領域を示すものとして必須アイテムでしょう。そして次に必要なものがイージーチェア。なるべくゆったりと長時間くつろげるものを選びたいものです。そして小さなテーブル。この 3 点に加え、デスクランプやフロアランプなどの照明器具も欲しいものです。この基本的なアイテムが揃えば、ひざ掛けやクッション、観葉植物、ミニオーディオシステム、フラワーベースなど、自分だけのお気に入りをコーディネートすればいいのです。

以下にそれぞれのアイテムを示します。(注: それぞれのテイストを揃えること)

### コージーコーナーの構成アイテム

- カーペット ○ひざかけ ○観葉植物
- イージーチェア ○クッション ○フラワーベース
- オットマン(足のセストール) ○照明器具
- 写真集 ○小テーブル ○ミニオーディオ
- 絵画など



# 自由からの逃亡を考える

## －「自由」の真の意味とは－

2013年11月9日（土）13：00～14：30  
旭川大学短期大学部 山下 由紀夫

### 【講座概要】

#### 1. はじめに

近代人が古いしきたり・慣習や権威から解放され自由になったとしても、その反面では、自らに課せられた責任の重さと他者との競争関係から生まれる孤独感、さらには、巨大な近代社会システムでは一つの歯車でしかすぎないという無力感と脱力感を感じるようになるという。エーリッヒ・フロムは、その卓越した分析力で、現代人に通じる「無感動で自発性を失った画一的なパーソナリティ」の出現を警告しました。現代社会に生きる私たちは、このフロムの警告をどのように受け止めていったらよいのか、フロムの自由論と漂泊の俳人「種田山頭火」の自由を求めた生涯の軌跡を手がかりにして考えてみましょう。

#### 2. E・フロムの自由論

フロムは、近代人が古いしきたり・慣習や権威から解放され自由になったとしても、その反面では、①自らに課せられた責任の重さ、②他者との競争関係から生まれる孤独感、そして③巨大な近代社会システムでは一つの歯車にしかすぎないという無力感と脱力感を感じるようになるという。帰属の呪縛から解かれ、自由を獲得した現代人が、今度はその「自由からの逃亡」を考えるようになる。

さらにフロムは、こうしたことから現代人は、進むべき道の二者択一に迫られるという。すなわち、「①自由の重荷からのがれて新しい秩序と従属を求める」のか、「②人間の独自性と個性とにもとづいた積極的な自由の完全な実現に突き進む」のか、という選択である。さて、現代を生きる皆さんは、どのような道を選択することになるのでしょうか。

#### 3. 漂泊の俳人「種田山頭火」と「自由」

現代人は、「自由からの逃亡」を標榜するのですが、明治・大正・昭和の時代を駆け抜けた俳人山頭火は、ひたすら自由を追い求め、留まることを知らず漂泊の旅を続けていったのです。それは、あたかも「自分探し」の永遠の旅のごとくです。山頭火が抱く自己の内面に向かって鋭く研ぎ澄まされた感性は、悔恨と不安と希望が交錯する人間的な—あまりにも人間的な生き方として現出し、現代を生きる私たちに迫り来ます。

「分け入っても分け入っても青い山」や「まっすぐな道でさみしい」などの代表的な自由律俳句からは、「生活態度は空寂でありたい」という山頭火の何物にも囚われることのない内面化された精神の自由を感じ取ることができからです。山頭火研究の第一人者でもある大山澄太は、「空寂。それが、山頭火あこがれの心境である。求めず、拒まず、あるがままを肯定しようとする。そこには貧も富も、負も勝もない、生も死もない。《大山澄太「俳人山

頭火の生涯」弥生書房 昭和46年(1971)》と評しています。

#### 4. 自由への道～「人間である」ことから「人間になる」ことへ

人間（人類）が地球上の他の生物と比較して、決定的に相違する特別な能力として、3つの能力を挙げることができるでしょう。それは、第一に、人間（人類）は、「高度な言葉（コミュニケーション）」と「思考する能力」を持ち得ることにより、高度で複雑な社会を形成することができます。他者との関係性を築くことが可能になったことです。2つ目には、人が人を思いやる心や他者を愛する心を持ちえる「愛情」を授かったことが挙げられます。それにもう一つは、「時間の概念」です。時間とは、過去から現在に至るまでの連続性として把握することができますが、人間は、その過去と現在の連続性の中で、未来をも思い描くことができるのです。人間は、時間の概念を持つことにより、自らの生き方を「過去（悔恨）と現在（不安）と未来（希望）」として考えることができるのです。このように、過去を反省し、現在をより良く生き、未来に希望を描くという、人間にのみ与えられた高度な能力の意味を「自由」という側面から再考してみることも大きな意義があるといえます。

人間は、誕生時には、「種としての人間」の様態であります。しかし、人間を「成長の概念」で考えてみることで、授かったその特別な能力により、本能（知能）のレベルから知識や知性（智慧）、それに理性をも獲得し、「人間である」ことから「人間になる」ことができるのです。そうしたことから「人間であること」から「人間になること」が、「自由への逃亡」でもあり、「自由」の真の意味でもあると考えることができるでしょう。



# 「日本の35万人市を比較してみよう」

## －旭川は住みやすい市か－

2013年11月16日（土）13：00～14：30

旭川医科大学 藤尾 均

日本の市の数は、2014年1月1日現在、770である。2013年12月1日現在、人口が最も多いのは神奈川県横浜市で約370万人、最も少ないのは北海道歌志内市で約4千人である。旭川市は約34万人で、多いほうから58番目である。旭川市よりも人口が若干少ない8つの市が、秋田県秋田市、福島県郡山市、福島県いわき市、群馬県前橋市、埼玉県所沢市、埼玉県越谷市、滋賀県大津市、高知県高知市である。逆に若干多い8つの市は、群馬県高崎市、埼玉県川越市、愛知県豊橋市、愛知県岡崎市、大阪府吹田市、大阪府高槻市、奈良県奈良市、和歌山県和歌山市である。

今回のオープンカレッジでは、これら16市と旭川市とをさまざまな視点で比較することによって、旭川市が住みやすいまちか、住みにくいまちかを、トータルに検証した。その概要は以下の通りである。

比較の対象は、人口増加率、面積、可住地面積、人口密度、可住地人口密度、人口割合（15歳未満、16～64歳、65歳以上）、年平均気温、年間降水量、年間日照時間、就業人口割合（第一次・第二次・第三次産業別）、市の木、市の花、市の鳥、出生率、死亡率、婚姻率、離婚率、財政力指数、実質公債費比率、将来負担比率、人件費比率、人口あたり市職員数、ラスパイレス指数、一般行政職平均給料、市長の給料、人口あたり家庭ゴミ排出量、ゴミのリサイクル率、住民票交付手数料、水道料金、下水道料金、消費者物価指数（食料全般・穀類・生鮮魚介・肉類・生鮮野菜・住居・電気代・ガス代・衣料・理美容サービス・総合）、建物火災発生率、交通事故発生率、犯罪発生率、人口あたり都市公園面積、人口あたり図書館蔵書数、保育所入所待機児童数、教育用コンピュータ1台あたりの公立小児童数、同じく公立中学生数、学級あたり平均公立小児童数、同じく公立中学生数、人口あたり一般病床数、人口あたり医師数、同じく小児科医師数、同じく小児歯科医師数、同じく産婦人科医師数、妊婦健診費助成回数、同じく上限金額、介護保険料基準額、人口あたり老人ホーム定員、平均寿命、土地平均価格（住宅地・商業地）である。

結論として、旭川市が住みやすい市であると考えられる要因としては、

- （1） 可住地面積が広く人口密度が低い。地価も安い。まだまだ開発の余地があり、工夫次第で人口増も見込める。
- （2） 交通事故が少なく犯罪も少ない。治安が比較的安定している。
- （3） 図書館蔵書数、小中学校の教育用コンピュータ数、クラスあたりの児童・生徒数は、いずれも恵まれている。市が教育に力を入れていると評価できる。

- (4) 医師数，一般病床数，小児科医師数は，比較的恵まれている。
- (5) 都市公園の面積が比較的広く，市民の憩いの場が確保されている。
- (6) ごみの排出量が比較的少なく，リサイクル率は比較的高い。市民にエコ意識が定着している。
- (7) 物価が比較的安い。
- (8) 市の木，市の鳥はかなりユニークなものが選定され，市のPRにつなげやすい。

逆に，住みにくい市であると考えられる要因としては，

- (1) 年平均気温が低く日照時間が短いなど，厳しい気象条件下にある。
- (2) 高齢化率が高く出生率は低い。人口減少に歯止めがかかりにくい。
- (3) 第二次産業に従事する人口が少ない。ものづくりの観点からみると懸念材料である。
- (4) 財政力指数が低く将来負担比率が高いのに，幼年人口と労働人口は少なく，将来負担がいっそう増えることが懸念される。
- (5) 下水道料金・住民票交付手数料などの公共料金が高い。
- (6) 火災が比較的多い。冬場の暖房のためか。
- (7) 保育所待機児童が多い，老人ホーム定員が少ない，介護保険料が高い，妊婦健診の助成金が少ないなど，社会保障・社会福祉の面で問題を残している。

最後に，住みやすいか住みにくい一概に判断できない要因としては，

- (1) ラスパイレス指数，人件費比率，市長の給料は比較的低い，これは財政難の現れでもあり，単純に評価はくたせない。
- (2) 医師・歯科医師数が多い割には，産婦人科医師や小児歯科医師の数はさほど多くはない。
- (3) 婚姻率は低めであるが離婚率は高めである。離婚を一概によくないとはいえないが，教育・福祉などの面で市の財政負担が増えることにもつながりかねない。
- (4) 平均寿命は全国平均レベルである。



## 「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計

### 「文学は旭川の文化財」

2013年9月7日(土)

< 19名参加中 16名記入 >

#### 1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。

- ・ 小熊秀雄賞の舞台裏の御苦労や御活動の話を知ると、旭川の文化活動は脈々と営まれていることを知り嬉しく思います。またあちこちの碑など以後は注意して目にとめるようにする楽しみもできました。
- ・ 旭川の文学をめぐる歴史・環境などを俯瞰する様なお話、肩に力が入らずリラックスして聴けました。
- ・ 文学のテーマで本質的な見方や人の心の奥深さ、歴史等様々な事を学びました。まだまだ講演を聞きたかった。
- ・ 先生のお話、とても聞きやすかったです。
- ・ 小熊秀雄賞受賞者の作品を読みたいと思いました。
- ・ 四方山話、楽しかった。
- ・ 「小熊秀雄賞」決定までの経緯等、宮澤賢治の旭川立寄り地など今回はじめて聞きましたが、たしかに文学者と旭川のかかわりについて興味深く聞かせてもらいました。
- ・ 小熊秀雄氏の歴史ならびについて感を深くしました。後日、詩集を読みたいと思います。
- ・ 旭川市は詩情にあふれた街であること特に人の心になにかをうったえる力があることを知りました。
- ・ 非常に良かった。
- ・ 旭川に関係のある作家が大勢いることがよくわかり、9月14日の講座も楽しみです。
- ・ 小熊秀雄について、講座でやっと入り口に入ることが出来ました。
- ・ 旭川にゆかりの作家の説明、配布された資料に感謝します。
- ・ 小熊秀雄賞、長い間続けられていることを知りました。ありがとうございます。
- ・ 文学の事はまだよくわからないのでこれからも学びます。
- ・ 旭川の著名文化人（歌人・詩人 e t c）の多さに驚いています。
- ・ 今まで、文学についてはあまり興味がなかったのですが、この度を機に井上靖さんの人と文学について勉強し旭川文学の入門としたいと考えています。

#### 2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）

- ・ 更にアピールできる催事（旭川特有の街づくり等）をしたらと思います。
- ・ →文学碑を訪ねるコース。（ウォーク、バスで回る見学会など）
- ・ 宮澤賢治研究会があったとは！！是非賢治論を。

- ・ 外来種生物（アライグマ等）の被害が近隣農家の方々から最近聞きます。詳しく教えてくださいと助かります。
- ・ もう一度聞きたいこのテーマで何度も
- ・ 旭川の経済
- ・ 「漢字」に関する話
- ・ 直近の旭川の経済状態の現状と国・道・市の対応等について
- ・ 上川アイヌの生活，歴史など
- ・ 終戦の頃の話を知りたい

### 3. 今回の講義に参加するのは・・・

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
10名	2名	3名	0名	1名

### 4. この講義をどこで知りましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他
1名	1名	8名	4名	2名

### 5. あなたの年齢は？

30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
0名	0名	1名	6名	9名

### 6. 性別は？

男性	女性
11名	5名

## 「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計

### 「文学都市としての旭川」

2013年9月14日(土)

<19名参加中 17名記入>

#### 1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。

- ・ 「旭川」における「馬」を多く取り入れているのは、軍都に進む背景を見ているようで楽しかった。
- ・ きめ細やかな講演内容でした。
- ・ 宮澤賢治の「永訣の朝」は極めて印象的で、妹に対する愛情が強く感じ取れました。この話は前に聞いたことがあります。
- ・ 賢治の詩「旭川」を詳しく分析しての解説は大変有意義なことでありました。
- ・ 宮澤賢治の来旭のことが少しわかった。
- ・ 宮澤賢治の世界の面白さが再認識できた。(2つの詩編から見ても多くの疑問がでてきたので、このような講演内容はとても良いと思いました。)
- ・ 宮澤賢治が大正時代に旭川に来て詩を書いていたこと、詩の内容からもやはりその時代が背景として詠まれていることから興味を持ちました。このような文学者の旭川のエピソードをこれからも聞きたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ あまり考えないで読んでいましたが、読み方を習って良かったです。
- ・ 大変楽しく学習することができました。都市としての文学詩情にあふれていることに気がつきました。
- ・ 講話ありがとうございました。
- ・ 初めて目にする「旭川」の賢治の目が詩文から読み取れて嬉しかったです。
- ・ 今回講座で取り上げた文学として考える旭川市。  
(文章というより紹介の方法が今はTV)
- ・ 旭川という詩をとりあげ時代背景など面白く受講しました。
- ・ 宮澤賢治の文学館へ行ったことがありますので旭川にかかわりのあることが思い出さなかつので、一度は旭川に来たのが解り楽しい時間でした。行く前に解っていたらもっと賢治の事が理解できたと思いました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 宮澤賢治が旭川を書いた詩があったとのこと知りませんでした。しかも結構長い詩で読み解くと、大変深い感慨があったのだ・・と思うととても興味をそそられました。
- ・ 宮澤賢治の作品に限られたもので、もう少し井上靖や三浦綾子の世界についても触れてほしかったです。

**2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）**

- ・ 北海道各地のアイヌ文化相違点
- ・ 地名が入った詩の世界の研究
- ・ 他の文学作品についても取り上げて解説をしてほしい
- ・ 社会経済学・医学関係のお話を
- ・ 映画について
- ・ 近代文学
- ・ 古典芸術・・・詩吟（漢詩・俳句・短歌など）
- ・ 教育問題（いじめ・虐待）

**3. 今回の講義に参加するのは・・・**

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
5名	8名	2名	0名	2名

**4. この講義をどこで知りましたか？**

大学からの案内	友人	公的機関 （公民館等）	市民こうほう （冊子）	その他
2名	1名	8名	4名	2名

**5. あなたの年齢は？**

30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
2名	0名	2名	2名	11名

**6. 性別は？**

男性	女性
12名	5名

## 「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計

# 「子ども等を介護から解放し、在宅ケアで老後を生きる」

2013年9月21日(土)

<20名参加中 17名記入>

### 1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。

- ・ デンマークの老後のケアについて参考になった。日本ではできるのだろうか？
- ・ 今の生き方、自己決定権を話せる様に考えてみたいと思いました。
- ・ アンケートの結果、高齢者は子供に世話してもらいたくない人が多いのは残念。ある程度世話する気持ちが欲しい。
- ・ 自分の今後のことについて身にしみて考えた。
- ・ 現在の家庭に於ける介護を受けることができる子どもと共に考え、お願いするとともに、国(行政)にも現実の実態を把握し対処してほしい。(あまりにも自己本位かな?)
- ・ デンマーク方式の24時間在宅ケア体制が必要ではと思います。その分税金が増税になったとしても、これからの高齢化社会を迎えるにあたって必要ではないか。遅すぎるかもしれませんが・・・。
- ・ デンマークとは国民性、体制も違いますが、今後の生活設計で参考になりました。
- ・ 施設に入るには金額がかかる、又自分もそう介護に来てくれるひとがだんだん居なくなり、結局自宅で寂しく死を迎えることになるのでは。老人が多くなる将来の想像。
- ・ どうしたら良いのかの内容が欲しかった。デンマークのスライドなどあればもっと良かったのでは・・・。
- ・ 寝たきりをつくらない。自分で決める。ヘルパーはすべて公務員。(これは印象的。)
- ・ 介護に関する考え方の実態がよくわかった。(自分はどれにあてはまるかなど考えながら興味深く聴講出来た。)
- ・ 子どもと介護専門職の役割分担を学べたことは良かった。
- ・ 自分らしく生きる老後について改めて考えました。
- ・ 教室の関係かマイクのせいか良く解りませんが外からの音で講師の声が良く聞こえず資料がありましたので何とか理解した次第です。
- ・ アンケート調査は都市部だけでなく「地方の山・魚村のデータを集めた場合調査内容は少しずつ異なって来るのではないか」ということを学びました。

### 2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？(テーマをあげてください)

- ・ 旭川はタバコを吸っているところが多く、分煙も機能していないところが目立ち子どもがいても吸っているのは困っています。禁煙に取り組むような講座。
- ・ 孫との接し方。(あまり口を出してはいけないと言われる。ほどほどのつきあいになっている現状。もっとかかわりたい気もするがわずらわしい気もする。)
- ・ 傾聴ボランティア関係の講座
- ・ 成年後見制度の手続きについて

- ・ 日本で24時間在宅サービスを受けた場合の国民ひとりあたりの負担はどのくらいになるか。

### 3. 今回の講義に参加するのは・・・

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
7名	1名	5名	1名	3名

### 4. この講義をどこで知りましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他
4名	1名	4名	7名	1名

### 5. あなたの年齢は？

30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
0名	0名	1名	6名	10名

### 6. 性別は？

男性	女性
9名	8名

## 「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計

### 「家具から見るインテリアデザイン」

11月2日(土)

<11名参加中 10名記入>

#### 1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。

- ・ 旭川が世界一家具インフラの整ったまちであることを改めて意識させて戴きました。
- ・ これからの暮らしに活かすことのできる「しつらえ方」「技」を教えていただくことができ、充実した講座でした。ありがとうございました。
- ・ 大変参考になり、物についていろいろと考えることが必要であることを深く感じました。
- ・ 森の中での暮らし、家具としてインテリアセンス、木に対する感性等自分自身の感じ方の大切さ。
- ・ 自分の住宅（一戸建）の住環境がいかにもずしいか痛感しました。
- ・ 「美しさを見せる」ということにもう一度見直してみたいと考えています。
- ・ 住空間を大事にし、周囲の環境・自然を生かした住まいとしてうらやましいと思いました。
- ・ 生き方そのもの。質の良さを考えた生き方について学びました。心に残った講座でした。
- ・ 物を捨てない考え方～大賛成です。
- ・ 大きな家ですが、エレベーターの採用は考えなかったのですか？
- ・ 研究室と居住を別々にする考え方はなかったのでしょうか？
- ・ 専門的なお話を伺い、事の大事さを再認識いたしました。
- ・ とても、興味深く良かったです。ちょっと不便の勧めなどはとても共感できます。

#### 2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）

- ・ 「美しい日用品編」で、織田先生のお話を希望します。
- ・ 市民の暮らしに関するもの全般
- ・ TPPと私たちの生活との関わり合いがどうなるのか教えてほしい。
- ・ 旭川の家具、本当に有名？なんですか？
- ・ 森林のあるべき姿。
- ・ 住まいの周囲をどう生活に活かしてゆくか？
- ・ もう一度、この講座を受けたい。
- ・ 家具と内装・外装の採用比較はなかったのでしょうか。
- ・ 知らないことを知ることの楽しさを味わっていますので、なんでもOKです。

3. 今回の講義に参加するのは・・・

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
3名	1名	1名	4名	1名

4. この講義をどこで知りましたか？

大学からの 案内	友人	公的機関 (公民館)	市民こうほう (冊子)	その他
0名	0名	5名	3名	2名

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
1名	0名	0名	0名	3名	6名

6. 性別は？

男性	女性
7名	3名

## 「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計

### 「自由からの逃亡」を考える

2013年11月9日(土)

<18名参加中 15名記入>

#### 1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。

- ・ 「ヤマアラシのジレンマ」に共感しました。まさに人間社会はこれにつきます。
- ・ あまりにも大きなテーマでどんな講座になるかと思い受講しました。生きるための講座。
- ・ 自分が今生きている事と思いを同じにしました。他人は解らない事で自分が納得しているだけです・・・。
- ・ 人間の生き方の追求談、自由の真の意味について考える人間の能力など。
- ・ 日頃当たり前だと思っている事が、様々な物の恩恵を受けている事を再認識しました。
- ・ 人としてどう生きるかが大切な事を学びました。
- ・ 共生する社会の実現
- ・ 心=生きること・生き方・行動
- ・ 「空寂」での考え方。(移住者も逃亡者の一種か。)
- ・ とても有意義なお話ありがとうございます。
- ・ 自分の生き方について考えさせられました。参考になりました。
- ・ とても聞きやすかった。山下先生ありがとうございます。
- ・ わずかな人生気楽に楽しくすごしたい。

#### 2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？(テーマをあげてください)

- ・ 日程が合えば、どんな分野でも受講したいと思います。
- ・ 人間学, 社会学, 医療系もいいですね。
- ・ 人間(人生)の生き方。
- ・ 北海道旭川の歴史について

#### 3. 今回の講義に参加するのは・・・

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
5名	1名	3名	1名	5名

#### 4. この講義をどこで知りましたか?

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館)	市民こうほう (冊子)	その他
3名	1名	5名	2名	4名

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
0名	0名	1名	1名	2名	11名

6. 性別は？

男性	女性
7名	8名

## 「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計

### 「日本の 35 万人市を比較してみよう」

2013 年 11 月 16 日(土)

<36 名参加中 29 名記入>

#### 1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。

- 旭川はとても住みやすい街だと思って移住しましたが、案外そうではないことがわかりました。
- 勉強になりました。
- 今回、市の詳しい表（人口等）を久々に見ることができました。
- 今後は、働きやすい市か、勉学(学力の低下の問題)等、大学でどのように考えているのでしょうか。
- 旭川の方々のなすべきポイントが良くわかった。旭川の行政関係の方々にも聞いてほしかった。
- 全国的な視点で、自分の住んでいる街を知ることができた。
- 大変興味深かった。ユニークな視点からのお話で楽しく聞くことができました。自分の住む街について改めて考えさせられました。
- 比較の切り口がおもしろかった。(今までにない比較でした)
- レベルが高い、もうすこしやさしく。
- 旭川市の現状を知ることができました。
- 「もっと知りたい旭川」、大変良いテーマです。身近なことを色々あり、楽しんで学びました。
- 旭川市のことについて良くわかりました。他の 35 万都市と比較して色々なことが詳しくてよかったです。
- 大変参考になりました。
- 旭川市の概況まとめが、わかりやすく勉強になり、ありがとうございました。
- 旭川市との他の都市との細かい比較はおもしろかった。将来的にはちょっと悲しい感じがしますが・・・。
- 旭川市の財政事情から市政の今を見つめる視点が強調されても良かったのではないかと。
- 自分の住む街の事をもっと知りたいと思っています。今回も楽しく聞かせて頂きました。
- 問題点も少しはわかりました。
- 「公報」で少しは知っているが細部に渡り説明していただきとても良かった。先生とても良かった。
- 旭川の財政や教育環境等について詳しく知れたので参考になった。
- おもしろくためになる講座でした。
- 大変良かった。
- 詳しいデータありがとうございました。大変参考になりました。
- データの比較も面白いものですね。
- 改めて旭川の内情がつかめました。時間は予定通りにしていただきたい。
- 数値から見た各市の状況が良く理解できました。(市の幹部や講義にも説明してほしい)

- ・ 非常にわかりやすかった。
- ・ 他市との比較ができて大変参考になりました。
- ・ わかりやすい話で良かったです。

**2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）**

- ・ 労働者の勉学等の講座
- ・ 楽しい話と旭川の出身者の有名人のネタ
- ・ 消費者市民社会をわかりやすく話してほしい。
- ・ スポーツ関係
- ・ 『氷点』の講座をここでも・・・。
- ・ 哲学・思想の講座
- ・ 道内の観光と旭川について
- ・ 旭川・北海道の歴史について

**3. 今回の講義に参加するのは・・・**

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
6名	9名	5名	3名	6名

**4. この講義をどこで知りましたか？**

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他
10名	1名	8名	7名	3名

**5. あなたの年齢は？**

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
1名	1名	1名	3名	7名	16名

**6. 性別は？**

男性	女性
15名	14名

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム  
連携公開講座 2013  
旭川市教育委員会共催  
「あさひかわオープンカレッジ」報告集

2014 年 3 月発行

編集・発行：一般社団法人旭川ウェルビーイング・  
コンソーシアム  
連携公開講座部会代表校・旭川大学